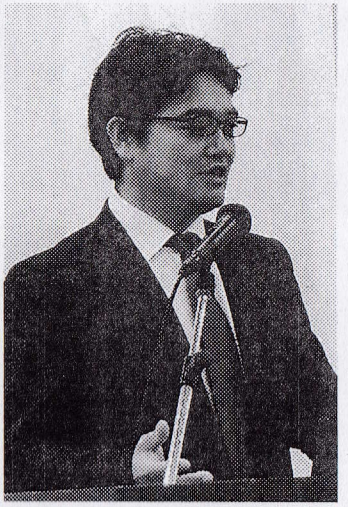
洗濯機で洗えるシルク
「SHIDORI」開発

山内伸介山嘉精練社長講演



「SHIDORIが衣料と地球の未来を切り開く、アウターからインナーへのシルク改革」

当社は日本人が受け継いできた伝統を現代社会のニーズに合わせて進化させ、人と地球が抱える問題を解決することを目指しています。これが当社の掲げる〝新伝統産業〟です。

シルクは長い日本の歴史において、とても重要な役割を担ってきました。その最たるものが、伊勢神宮などで、神様への献上品の数々にシルクが使われてきたことです。

近年ではファストファッションが盛んですが、大量生産、大量消費の次に行われるのは大量廃棄です。豊かさを求めるあまり、限りある資源を粗末にするのは賢明ではありません。

シルクは蚕から生み出される究極のエコ素材です。必要なのは蚕の餌となる桑だけ。シルクは1300年以上の昔から自然の中で調和と秩序を保ちながら生産してきた地球にやさしい繊維なのです。

現在普及が進んでいる化学繊維は様々な病気やアレルギーを引き起こしていると言われています。さらにかゆみや湿疹、乾燥肌や敏感肌など、皮膚にまつわる様々な症状で悩んでおられる方が大勢います。また紫外線量も増加し、日焼け止め対策にも工夫が必要です。

シルクは単に美しいだけでなく、これらから人間を守る様々な効能が秘められています。シルクは蚕が身を守るために作る天然のシェルターです。シルクが他の繊維と最も違う点はシルクを構成するタンパク質が人間の皮膚とほとんど同じ分子構造でできていることです。だからアレルギーになりにくい。

保温性と吸湿性に優れ紫外線を吸収

またその優れた保温性と吸湿性は温度の急激な変化を和らげる緩衝材になります。衣服と肌の間の温度を約24度に保ち、湿度が高くなれば湿気を排出し、乾燥すれば空気中の湿気を採り入れようとします。紫外線は繊維自体が吸収して肌に通しません。

さらに微生物の繁殖を抑える性質があり、抗菌や防臭、消臭効果もあります。

加えて300度以上にならないと燃えないばかりか溶解もしないので化学繊維のように高温ですぐに溶けて、体に付着し大火傷を負うという危険もなく、安全です。

このようにシルクは蒸れや乾燥、急激な温度変化や細菌から肌を守る第二の皮膚としての役割を果たしてくれるのです。

これほどの多機能性を持つシルクは直接肌に触れるインナーに使うのが最適です。しかしシルク製のインナーが普及したことはありません。シルクは専門家でも扱いが難しく、まして家庭で洗うことは不可能だったからです。このためシルクの用途は着物や帯、ネクタイなど日々洗濯する必要がないものに限られていました。また現在、他社から販売されているウォッシャブルシルクと呼ばれる商品も手洗いや弱水流で洗う必要があり、乾燥は脱水機を使わず、タオルでくるんで水分を取らなくてはなりません。多忙な女性にとってこれらの時間を割くことは大変難しく、某ファストファッション大手が販売した際も大きなクレームになりました。

また洗濯機で洗えるようするために、ケミカルコーティングを施した製品もありますが、芯はシルクでも表面は化学繊維と変わりません。

しかしシルクで人を守るというテーマで研究を行ってきた当社はシルクを構成するアミノ酸分子に注目し、これ自体を強くする技術の開発に成功しました。これがシルク本来の風合いと効能を失わず、コットンのような耐久性を兼ね備えた新しいシルク「SHIDORI（しどり）」です。長年シルクに携わり、シルクを知り尽くした当社だからこそできた技術です。

昨年11月にNBK大賞を受賞してから半年。大手アパレルメーカーなどにSHIDORIを採用して頂く機会が増えてきました。今年40周年を迎えられる大手下着メーカーでは40周年記念商品全てに当社の技術を採用して頂きました。

今後は西欧の高級アパレルと提携するなど販路開拓を進めると共に、繊維としてのシルクに止まらず、液体や粉末状のシルクなど様々な商品と用途の開発を行っていきます。